

憲法巡り 主張熱く

護憲派

県内で集会

改憲派



護憲派団体が開いた集会で、憲法に明記された生存権の積極活用を訴える雨宮さん(右)＝3日、福井市の県自治会館



パネル討論で自衛隊を明記する憲法改正を訴えたフォーラム＝3日、福井市のアオッサ

自衛隊明記必要 県議らパネル討論

保守系団体の日本会議福井な憲法が合っていない」と問題提起を訴えた。起。滝波宏文参院議員は「9条の2」新設で自衛隊を明記する論議の停滞に、大森共同代表は「本来すべき議論が加計・森友問題にいつまわっているのは示すことが大事だ」と強調した。長田光広県議は、2月の記録的大雪時に自衛隊が活躍したことを挙げ「胸を張って活動してもらえない形をつくるべきだ」と主張。清水智信県議も「自分たちの国は自分たちで守らないといけない」と自衛隊明記の必要を一事もあった。(細川善弘)

安倍晋三首相が改憲発議を見据える中で迎えた憲法記念日の3日、県内では改憲派、護憲派の双方が集会を開き、それぞれの立場からの主張を熱く訴えた。

【1面に本記】

護憲派団体による「憲法を守り育てる集会」は、福井市の県自治会館で開かれ、約350人が参加。「反貧困ネットワーク」世話人で作家・活動家の雨宮処凛さん(43)＝東京都が、憲法に明記される最低限度の生活が保障される権利は使わなければなくなってしまうとして、生存権を具現化する最低賃金の引き上げや生活保護制度の活用を訴

「戦争する国づくり反対！福井絵がかりアクション」と「九条の会・ふくい」が開いた。雨宮さんは、池田町在住で日本ジャーナリスト会議賞選考委員の伊藤洋子さん(75)と対談した。非正規雇用の拡大で労働条件が悪化し、所得も安定せず生きづらいつまわっているという指摘。民一人一人の生活を守ることだ」と主張。政権不祥事が続く現状打破を期待することが全く現実味のないことではなくな

(小林真也)

生存権の活用を 雨宮処凛さん対談